

Q18 時や場をわきまえず，しゃべりすぎてしまう子どもには，どう対応したらよいでしょうか

### 子どもの状態

授業中でもかまわずおしゃべりしてしまう。  
声の大きさや話す速さを調整するのが苦手である。  
質問が終わらないうちに答え始める。  
自分の興味のある話を夢中で話しているうちに話題がどんどん変わってしまう。  
初対面の人になれなれしく話すなど，相手に合わせて言い方を変えられない。

### 状態の理解のポイント

- ・ 感情のコントロールが難しい。  
(多動性や衝動性の一つの状態)
- ・ 行動の結果を予想したり見通したりすることが難しい。
- ・ その場の雰囲気や相手の気持ちが分かりにくい。
- ・ 社会的ルールを習得していない。

### 考えられる対応

座席を前に置き，説明や質問の間は肩に手を置くなどして，発言のタイミングを知らせる。(図125)

不必要な発言に対しては，周りの子どもたちとともに，過剰に反応しないようにする。

話題が変わったときは，「      の話だったよね。」と話を戻すようにする。

話し始めるときは，「      について話します。」と話題から話すようにし，最初に意識付ける。

時と場に応じて声の大きさを調整するようにする。(図126)

ロールプレイ(役割演技)などを通して，相手に合わせた適切な言い方を教示する。

[例] 友達：「      先生はどこ？」 「職員室だよ。」

年上の人：「      先生は？」 「職員室です。」

発言時の約束を見やすいところに掲示しておく。(図127)

発言を我慢させるだけではなく，十分話を聴いてあげる時間ももつようにする。

家族で団らんのときなども，お互いに話のじゃまをしないようにして，よく聴いたり，交替で話したりする。



図125 発言の合図



図126 「声の大きさ」カード

- ・ 授業中に発言したいときは，手を挙げて知らせよう。
- ・ 友達が話しているときに自分も話したくなったら，「話してもいい？」と許可を求めよう。
- ・ 話す前に「      について話します。」と話題を伝えてから話そう。

図127 発言時の約束(例)